

NEWS LETTER



NO.28 2007.9.1

にほんごひろば岡本

発行：にほんごひろば岡本
〒658-0003 神戸市東灘区本山中町 4-18-22
☎078-453-5931
<http://www.kabto-yama.ac.jp/hiroba/>

「適当なテキトー」で楽しい支援

今年もにほんごひろば岡本恒例の七夕まつりが開催されました。例年梅雨時にあたり天候に恵まれないことが多いですが、ことしは晴天で今までで一番の盛況ぶりでした。普段は決まった曜日にペアで学習するので、なかなか他の学習者や支援者と話す機会が少ないのですが、書道や茶道、折り紙や浴衣の着付けを通して色々な人と触れ合えたかと思えます。

ボランティアで日本語を教え始めて5年目になりますが、多くの支援者同様、私も初めは「言語を教える」ことにガチガチになってしまい、学習者自身を理解する余裕がありませんでした。しかし、今は学習者にとって本当に必要なことは「言語」の向こう側にある「日本」という文化を伝えることだと思っています。



「文化」というと大袈裟に聞こえるかもしれませんが、私たちの日々の生活自体が「文化」だと思っています。箸を持つ、玄関でくつを脱ぐ、おじぎをするなど普段私たちがしていることすべてが学習者にとっては「日本文化」です。大学受験を控えた受験生の学習者とペアならば「文化」よりも「文法」を教えなければならないのですが、にほんごひろばに来る学習者はどちらかといえば生活面での「言語」を学びにきている人がほとんどです。一緒に楽しく「言語」を学ぶことが一番だと思っています。

今年は「テキトー」な人が流行っているそうです。肩肘張らずに自然体で生きる人という意味らしいですが、「適当」という言葉は不思議な言葉で、「ある状態・目的・要求などにぴったり合っていること」という意味と「いい加減なこと」という正反対の意味があります。漢字から推測しても恐らく最初の意味は前者だったのだらうと思いますが、それがだんだん「ぴったり合っている」→「良い加減」→「いい加減」となっていったのでしょうか。このように、教える「言語」自体も「テキトー」なんですから、私たちが肩に力を入れず、「適当なテキトー」で楽しく支援していければと思います。そしてこの「テキトーな支援」をしながら、ネイティブである私たち自身が日本語のおもしろさを実感し、その言葉の向こう側にある「日本文化」をいとおしく思えば、それが「適当な支援」につながっていくのではないのでしょうか。(古川知津子)

◆「にほんごひろば岡本」第8回総会報告

開催日時：2007年6月2日（土）午後1時～3時

開催場所：にほんごひろば岡本

- 議案：**第1号議案...2006年度活動報告
第2号議案...2006年度収支報告
第3号議案...2007年度活動方針（案）
第4号議案...2007年度予算（案）
第5号議案...2007年度役員改選（案）



総会設立要件：登録者総数 43名

出席者数 11名

委任状 18名

規約により、過半数以上を満たしているため、本総会は成立しました。

議長：黒岩元晴氏

《議事》

第1号議案...2006年度活動報告に関する承認の件

議長の指示に基づき、西村代表から配布資料に沿って説明がありました。

- ひろばの支援者が故郷で支援している「おのみち日本語教室」のメンバー7名がステップアップ講座第3回に参加、交流会をもって、支援上の問題点などを話し合いました。
- 支援者の三木（古川）知津子さんの尽力により「にほんごひろば岡本」のホームページが大幅に刷新されました。

第2号議案...2006年度収支報告に関する承認の件

議長の指示に基づき、西村代表から配布資料に沿って説明がありました。

収支について会計監査報告を会計監査の黒岩氏と市川氏にお願いしました。帳簿書類等を監査の結果、適正かつ正確に処理されていると認められました。

第3号議案...2007年度活動方針（案）に関する承認の件

議長の指示に基づき、西村代表から配布資料に沿って説明がありました。基本方針に加えて、学習者との異文化交流のみならず、支援者が異世代間交流のできる場でもありたい、また、日本語学習の枠にとらわれず、より広い視野に立った支援活動を目指したい説明がありました。

- 男性支援者を増やす方策のひとつとして、宮武氏が独自にポスターを作成し、神戸大学の学生に広報活動をしてくださることになりました。
- ホームページを活用した質疑応答や意見交換ができないか模索してみようとの声が出ました。
- 年忘れお楽しみ会で行っていたバザーを見直し、今年度はとりやめることになりました。

第4号議案...2007年度予算（案）に関する承認の件

議長の指示に基づき、西村代表から配布資料に沿って説明がありました。

第5号議案...2007年度役員改選（案）に関する承認の件

議長の指示に基づき、西村代表から配布資料に沿って説明がありました。

- みんなでつくる「にほんごひろば岡本」を実現させたいとの思いから、今年度も学習者に運営委員に

なってもらい、日常の学習支援やイベントなどに学習者の声を十分に反映していこうということになりました。

今年度の役員並びに運営委員は次の方々となります。

代表：西村佳子

副代表：下田美津子 宮武寿美雄

会計：坂本喬子

会計監査：黒岩元晴 市川邦子

運営委員：橋本桂子 松見和代 吉田加代子 古瀬尚子 井畑眞理子 三木知津子 小澤恭子
吉岡恵子 マッカイみどり

学習者代表；ウォン・ヨンジュン、チョン・ソンギョン、山中ラーワン（敬称略）

第1号議案から第6号議案まで議場に諮った結果、特に異議なく拍手多数をもって原案通り承認されました。

ひろばのいろいろなイベントのお知らせを黒板や通路に貼っておきますので、注意してみてください。また、学習者にもその都度説明してください。ご協力お願いいたします。

支援者・学習者紹介

★大道麻里さん

☆曹 蓮花さん（中国出身・女性）

それぞれの先入観に気づき

神戸松蔭女子学院大学4年生の大道麻里です。大学2年の時からひろばでお世話になっています。最初は同じ大学の石田さんと二人で約1年間韓国人男性の金さんを担当しました。翌年、韓国人男性の成さんを担当しました。そしていま、中国人女性の曹さんを担当しています。

曹蓮花（そう れんか・写真左）さんは朝鮮系中国人の女性で、新婚さんです。ご主人は内モンゴル系中国人の方で、以前は日本の大学で勉強をしていましたが、現在は日本の企業に勤めています。お二人が知り合ったのは曹さんのお姉さんのご紹介だそうです。曹さんのお姉さんもまた日本の大学で学んでいたそうです。

曹さんは学生時代少し日本語を学んでいましたが、今年の4月に日本に来たばかりで、始めは初級のテキストで勉強していました。しかし彼女はとても熱心な勉強家で、毎日毎日勉強をしていま

学習の日に「一週間何をしていましたか？」と尋ねると必ず「勉強していました」と言います。



実際、1カ月でテキストを一冊終わらせました。そして今は中上級のテキストで勉強しています。以前は文法中心の勉強でしたが、今は聞き取りを主にしています。会うたびに成長しているのが分かります。

曹さんは結婚前、中国で働いていましたが、日本でしばらく専業主婦をし、先日から不動産会社でアルバイトを始めました。たいていの日本語を聞き取れるようになったのですが、このアルバイト先の所長さんの話す言葉に訛りがあるらしく、分かりにくいそうです。なので方言についてもこれから少しずつ勉強していきたいと思っています。

一度曹さんのお宅に招待していただき、昼食をご馳走になりました。豆ご飯、キムチスープ、茄子の味噌焼きをいただきました。どれもとても美味しかったです。茄子の味噌焼きはご主人の好物だそうです。そしてこの日、外国人の先入観に気づきました。彼女はご主人と一緒に居るときは、玄関の鍵は閉めますがベランダの窓は開けたままにしておくそうです。これは夜寝るときも同じだそうです。ちなみに曹さんの家はアパートの1階です。日本は安全だと思っているのです。もちろん危険だらけではありませんが、今は昔ほど安全とは言えません。注意はしましたが、この他にも日本と中国の違いについて教えてもらい、私の先入観にも気づきました。このように、日本語を教える勉強以外にもお互いの国を正しく理解し、新たに知ることができ、とても楽しいです。

曹さんは美人で気だてが良く楽しい女性です。これからも彼女の日本語習得の力になり、難しい質問にも答えられるよう頑張っていきたいと思えます。

がくしゅうしゃしょうかい
学習者紹介

☆ペンルンさん (タイ出身・女性)

「タイの女性は世界一良妻賢母」は納得!

ペンルン・マンカラシリ・ル・ベールさん、ちょっと長い名前なのでピアックと呼ぶことにします。

ピアックはタイ語で小さい、その名のとおり彼女は小柄なのですが、エネルギーで、パワフルで、アクティブで、スウィートで・・・といった具合に英語の形容詞がしっくりくる女性なのですが、つまりは元気な、働き者で、好奇心旺盛な、やさしい奥さんでいいお母さんなのです。フランス人のご主人のお仕事柄、世界中を転々して来ているので、英語もフランス語も堪能で、語学に対するセンスがいいのか、私のいまいち要領を得ない説明もすんなりのみこんでくれて大助か

りです。その反面、世間話になると英語量がぐっと増えてしまうというのが目下のところの私の反省点と言えます。ひろばで彼女を見かけたらど



うぞ日本語で話しかけてください。

これは個人的な思いなのですが、ピアックが帰りの遅いご主人の健康を心配していたり、170センチを超えるご子息の前でもご主人のことダーリンと呼んでいたりと・・・タイ人の奥さんは世界一と言われる所以をかいま見たようで、私も夫を大事にしなければと思わされました。第二の反省点。

短い日本滞在をダーリンと存分に楽しんでほしいと思います。

最後にお知らせを一つ、梅田ヒルトンホテル 22階のリラクゼーション・サロンに行く彼女に会えるかもしれません。また、「英語で習うタイ料理」に興味のある方は水曜日にひろばで彼女に声をかけてみてください。(古瀬尚子)

☆アンドリュー・ウォリンスキーさん

(カナダ出身・男性)

映像作家を目指しています

ひろばのスピーチコンテストで有名なスコットさんのカナダからの友だちであるアンドリュー。

「ブチ、たいぎー！」だのと広島弁もしゃべってみたり、カラオケでは「水戸黄門」を歌ったり、はたまた馴染みのすし屋があったりと、日本語ペ

ラペラかと思いきや、まだ「げんき I」の*課をやっています。英語の先生のお仕事が忙しくて、ひろばに来るのもままならず、日本語の勉強時間が絶対的に少ないのが問題のようですが、反対に、実用日本語、暮らしの日本語は**課くらいでしょう。そのギャップを埋めるべく、ひろばに来られないときには、どうか「げんき I」の独学をしてください。次はいつ会えるかも分からないというのに宿題たんまり出したのは、真面目なあなた



ならできると信じているからです。

今の職業は？と聞かれば英語教師なのですが、彼がしんそこやりたいことは、映画を作ることなのです。残念ながら、インターネットに弱い私はまだ彼の作品をみたことがありません。詳しい方は Andrew Wolinsky のインディペンデント・ムービーを探してみてください。

このお盆には、これまたひろばのスピーチコンテスト優勝者のウィルと九州弥次喜多旅行を楽しんだそうです。持ち前の感受性の良さを生かして、日本の色々な人や景色とふれ合っ、次回作を温めていることと思います。GOOD LUCK !!
(古瀬尚子)

★林丹娜さん (香港出身・女性)

居酒屋大好きなコスモポリタン

リン ダンナさんは昨年の 11 月に来日、今年の 6 月から、ひろばで勉強しています。

香港生まれの彼女は、自分は中国人だと言うけれど、私にはどうもそんなふうには見えません。17 歳でスイスの大学に留学し、そこでホテルマネ

ジメントを勉強中にドイツ人のパティシエと知り合い、卒業と同時の 21 歳で結婚したそうです。スイスで出合ったとき、とてもしっかりしていたので、もうすこし歳が上に見えたようです。ご主人はほんとうにびっくりしたそうです。二人は結婚後、ご主人の仕事で中東やアジア諸国で暮らし、昨年から大阪で生活しています。

ひろばでは『Japanese for young people』を使っています。クロスワードなどのゲームを取り入れて楽しく学習しています。

ダンナさんは語学を勉強するのが大好きで、英語、中国語、ドイツ語を話します。今まで暮らした国々でその国の言葉や文化に触れるのはほんとうに面白いと話してくれました。

彼女のコスモポリタンでどこにでもすぐ馴染める性格は、いろいろな国で生活した経験からでしょう。



最近はひとりで浴衣も着れるようになりました。居酒屋が大好きなダンナさん。もっともっと日本の生活を楽しんで下さい。(松見和代)

千タオ便り Vol. 2

ひろばの皆さんお元気ですか。学校はあっという間に年度末を迎えました。私は 3 月から赴任したので、担当の学生たちとは 4 カ月だけのつきあいでした。そして彼らは卒業、一年間の職業実習へと進んでいきました。今回は彼らとの思い出を綴りたいと思います。

「まず、話そうよ」

食事のこと。まだまだ中国語のできない私がひとりりで外食に出かけると、とりあえず注文してみる、出てきたものを食べてみることになります。食べたいものになかなかありつけません。しかし「食べたいものがあったら言ってください。連れていきます」

こう言ってくれる学生がいるおかげで餃子や饅頭の具を選んで食べることができます。羊肉のスープなんて彼らがいなかったらいつ出会ったことやら。

次は**散髪**。学生たちの通う美容院なら失敗はないだろうと思い、どこの店がいいか尋ねてみました。

「髪を切りたいですか？ 私が連れていきます」

この時は中間試験直前にもかかわらず、放課後部屋まで迎えに来てくれました。バスに乗り、繁華街の建物の2階にある美容院へ。「日本人の老師つれてきた！」と紹介されてちょっと赤面。

受付から待ち時間、シャンプー、カットと常に私の両側について通訳してくれる心強い学生たち。散髪が終わり、精算では5元のディスカウント。そして色々な話をしながら学校まで一緒に帰りましたが

「私は日本語があまりできません・・・わかりますか？」と心配するので

「今私と話をしているじゃない。よくわかりますよ」と私。

同じようなことが他でもありました。書店で中国語の参考書を探していたときのことです。私のクラスの学生を見かけたので

「よっ！」と声をかけると、

「先生、ちょっとまって」としばらく考えたあと、「中国語を勉強するのですか。今日はこのあとどうしますか？・・・すみません、私は日本語が上手ではありません」

「そんなことない、よくわかりますよ。今こうして話してるし」

彼らは2年生、たくさん単語や文型を勉強して

いますが実際に会話する機会が無いようです。職員室や廊下、そして校外で初めて日本人（私）と日常会話を経験するわけです。前回もお話しましたが彼らには「ほんとうに自分の日本語が通じるのか、この先生とコミュニケーションがとれるのか」という不安があるようです。この不安を取り除くには個別に接するしかありません。

1クラス50人、40分のクラス授業では個人のアウトプット、つまり発話にあまり時間を取れないし、どこまで私の日本語が理解できているかを確認しきれないのが現状です（少人数で学習者の発話回数の多い授業が効果的という資料はたくさんありますが、そうでない場合の効果的な授業モデルの資料にまだ出会っていません。みなさん、いいアイデアがあればお願いします）。

クラスが少人数だったら、私が中国語で補いながら授業ができたら・・・いつも思いますができないものはしょうがない。私のここでの課題でしょうね。「初めは単語だけでもいいから、まず話そうよ」これがいつも私の根底にあります。

メールでチャレンジ

授業以外の交流、メールでチャレンジしてきた学生がいました。職員室にアドレスを聞きにきて、日本語と中国語と英語を駆使したメール交換が始まりました。私も中国語で返事をするとなんか添削して解説（なぜか英語で）をつけてくれます。職員室では日本語で言いたいことが言えず話を切り上げてしまう子ですが、なんとかして・・・という気持ちがとても嬉しく思いました。

学生たちと授業で顔をあわせるのは週2時間だけです。他は昼休み、一緒に外食したりピンポンしたり、教室では弁当を食べたりしていました。あやとりなんかもしましたね。日本でやっていたのと形が同じなんですよ。教室にいと、弁当のおかずやお菓子をたくさん貰えます。私が中国語を試す（教えてもらう）機会でもあり楽しい時間です。授業中は眉間に皺をよせて考えている学生

も食事やピンポンをしているときは生き生きと私に接してくれます。「それでいいんだよ」といつも心の中で思います。

私はよく気まぐれで「おはぎ」を作るのですが、



ある日職員室で同僚の先生方に配った話を授業でしてしまい、このクラスのためにもう一度作ることがいつかの約束になりました。その後、もうすぐお別れになることを知り、あわてて用意して学生に手渡しました。翌日、「今朝、私が作りました。」と容器に巻き寿司を入れて返してくれました。自分が作ったものをふるまうのは好きですが、逆にもらうと照れますね。

6月に入ると補習が始まったり試験があったりで、休日に集まって遊びに行くことがなくなってしまいました。そして7月、彼らは一年の職業実習に出かけ、私は日本へ一時帰国。夏休みだ、遊ぼうぜ！というわけにはいきませんでした。写真は近くのお寺へ行ったときのものです。

「青島にきてまだ少しなら、これからのことをお祈りしに行きましょう」ということになったのです。スリランカのときにも感じましたが、仏像は我々が親しんでいる顔と異なります。ただインドからの距離を考えると何か感慨深いものがありました。写真のお坊さんに私を紹介してもらおうと「中国、韓国、日本、このゴールデンベルトを大切にしましょう。何回でもいらっしゃい」と言っていただきました。

この4カ月、授業のことや生活のこと、考えることがいっぱい毎日試行錯誤の連続でした。

いつも心がけているのは、不平や不満にとらわれないことです。「言葉が通じない」という不自由さを考えるよりも、「今日はこのフレーズが通じた！」と喜ぶほうが楽しくなります。そして苦勞を感じる時間以上に、ここで出会う人たちは笑顔で接してくれます。まだまだこれからなんだと思います。それでは、また次回をお楽しみに。(平松久)

※7月の初め、一時帰国し、この原稿をひろばに持ってきてくれました。その時の写真も載せています。平松さん、8月中旬、元気で離日しました。



みんなのひろば

<七夕まつり>

今年はタイミングよく7月7日が土曜日だったので、七夕当日にイベントができました。天候に恵まれたためか、例年以上の大盛況でとても楽しかったです。書道、茶道、折り紙などを体験したり、浴衣を着付けてもらったりしてみんな嬉しそ



うでした。笹に願い事を書いた短冊を結びましたが、ある新婚カップルは「愛がつづきますように・もっときれいになりますように」、またある学習者

は「地球を守りたい」と頼もしいものがありました。久しぶりに全員の集合写真も撮れました！



News Letter に載せきれなかった写真はHPにアップしていますので、楽しんでください。

<お帰りなさい！マリーカルメンさん>

7年前、神戸高校の交換留学生として、メキシコからやって来たマリーさん、ひろばでは中禮かおりさんと楽しく学習していました。その彼女が6月、大学の夏休みを利用して、神戸に戻ってきました。偶然ですが、中禮さんもこの春ひろばに復帰してくれました。

かおりさんとの再会はもちろん、“大人になったマリーさん”にやんちゃな高校生のときを知っている支援者たちは大喜びでした。

2カ月という短い時間でしたが、日本の文化を知ろうと、手鞠製作の教室に通ったり、鳴門の人形浄瑠璃鑑賞、京都のお寺めぐり、祇園祭、大阪の電気街等々、地図を片手に元気に動き回っていました。

もちろん、ひろばでは特別コースで週2日、にほんごを学習しました。7年前は参加できなかった「七夕」にも参加してくれました。浴衣を着付

けてもらい、お抹茶を飲んでとても楽しそうでした。そんな日本大好きな彼女ですが、「たこ・えび・納豆」は苦手みたいです。

メキシコでも日系人が通う日墨文化学院で日本語を勉強していたそうで、私たちとの会話には何の問題もなく、いろいろお話をしました。

そんな話のなかで、マリーカルメンさん、ちょっと気になることを話してくれました。

「7年前、神戸に来たときは、もっと安全で人々は親切だった。今は何だか怪しい人が多くて、怖い町になった。もうひとつ凄く残念なことは、当



時神戸高校には制服はあったけど、みんな個性があった。7年経って、大学生になった友人は個性がなくなって、同じような格好をしている。メキシコの若者はそれぞれが自分を見せるし、見せたいと思って行動している」と少し顔を曇らせて話してくれました。

今、彼女はメキシコの大学で工業デザインの勉強をしているそうです。奨学金を受けていますが、時間のあるときは大学内で仕事をして奨学金を返しています。卒業したら、デザインをもっと勉強したいのでイタリアに行きたいそうです。

先進技術と歴史や文化を大切にしている「アンビバレンスな京都」も、とても魅力的な所だとも言っていました。

ひろばを忘れないで訪ねてくれて本当にありがとう！

一回りも二回りも大きくなったマリーカルメンさんの再々来日をひろばのみんな、待っています。

＜レティーさんの校外学習＞

5月26日、湊川神社の「楠公武者行列」を見学しました。



JR神戸駅、改札口で10時に待ち合わせをして神社に向かったが、5年ぶりのお祭りとおあって大変な混雑でした。見物人もみんな親切でレティーさんが外国人だと分かると、行列が良く見えるようにと、そっと場所を空けてくれる場面が多々あり、とても嬉しく感じました。

この武者行列は、670年以上も昔、後醍醐天皇が隠岐から京都へ向かわれる際、楠正成公（大楠公）が天皇を神戸でお迎えし京都へ先導した、その晴れやかな姿をたたえて行われてきた行列です。勇ましい鎧兜を身に付けた騎馬武者、華やかな衣装の舞武者、武者、侍女、稚児など、総勢600余名の大行列でした。武者行列は午前10時に湊川神社を出発し、中突堤、ハーバーランド、新開地など約6キロを巡行し午後3時半ごろ神社に帰還します。

私たちは午前中、神社で行列を見送り、和菓子で休憩をとり、校外学習を終了しました。

レティーさんは、初めて目にするものばかりでびっくりしていたようです。彼女も日本の古い文化を知る良い機会になったのではないかと、思います（吉田加代子）。

＜山本温子さん、田代奈緒子さん北京へ＞

ひろばの花、神戸松蔭の学生ボランティアで活躍してくれた、山本温子さん（写真右端）と田代奈緒子さんが北京外大日本語クラスのアシスタントとして8月26日、北京に向けて出発しました。山本さんは8月25日、かつての学習者のラムくん一家も訪ねてくれ、今の学習者の元ヨンジュンさんと趙エーレンちゃんとひろば最後の学習をし、別れを惜しんでいました。温ちゃん、七夕の短冊の願いが必ず叶うように頑張っね。願い事は内緒にしておきましょう。

「北京便り」を約束してくれましたよ。みなさん、楽しみにしてください。



●兵庫日本語ボランティアネットワーク10周年記念フォーラムに参加して

にほんごひろば岡本も加入している兵庫日本語ボランティアネットワークの10周年記念フォーラムが去る6月30日(土)に県民会館で行われました。

プログラムは基調講演とパネルディスカッションの2部構成でした。

1) 基調講演

「子どもたちに対する日本語教育－発達を支えるために－」

法政大学 キャリアデザイン学部 教授 山田泉先生

異なる文化圏の人々がうまく一緒に暮らしていくための「多文化共生」と小学校低学年で来日し

た子どもの学力養成に関連する「(日常)生活言語」と「学習(思考)言語」について述べられました。

多文化共生

外国から日本にやってきた家族が日本の文化に直ぐにはなじめないと同様に、日本人も彼らの文化をすぐには理解できない。

外国から来た子どもは、学校で目立つ存在(特に言葉に表れる)となり、しばしばいじめの対象となる。そのため彼らはそれ(彼らのアイデンティティー)を隠そうとする。

また、家族内での日本語力の差が家庭内のトラブル(事例として「日本語が上手でない自分の母親を友達に合わせないようにする」が紹介された)を生ずることもある。

これらを解決するために、お互いが「それぞれの文化は異なっている」ことを理解しあううえでそれぞれのアイデンティティーを消滅させることなく暮らしていくことが「多文化共生」であり、特に我々のホスト(外国人を受け入れる側)としての受け入れ能力を高めていくことが大切であるとのことでした。



「(日常)生活言語」と「学習(思考)言語」

小学校低学年や学齢前に日本に来た子どもは日本語は上手に話すのに、小学校高学年や中学校で来日した子どもより低学力であることが少なくない。

これは低学年で来日した子どもはまず日常生活のための「(日常)生活言語」の習得が優先されさまざまな教科を通じて学ぶ「学習(思考)言語」の習得が遅れるからだと考えられている。高学年で来日した子どもは来日前に母国語で学習言語(概念的、抽象的な言葉)を学んできているので、その母語の学習言語の一部は日本語の学習言語に置き換えていくことが可能だとされている。

現在、文部科学省でもこの問題を受けとめて研究開発チームを設け学習言語能力養成の試行が始まっている。「(日常)生活言語」と「学習(思考)言語」に関する簡単な資料はひろばに保管されています。興味のある方は参照ください。

2) パネルディスカッション「日本語ユーザーからの苦言」

コーディネーター：大阪大学大学院文学研究科 教授 青木直子先生

パネラー：

- (1) 仲松 えみ子 (陳 英敏) さん

中国出身、1998年、中国帰国者の3世の配偶者として来日

老人ホームの調理補助をしながら、「神戸外大 日本語学習を助ける会」で日本語を学習中。

- (2) 中村 ワンダさん

ブラジル出身、1990年、日系ブラジル人として夫、子供と来日

食品工場の下請け会社で働きながら夫とともに関西のブラジル人コミュニティのために

生活相談活動を行っている。

(3) 許 智仁 (ホ ジイン) さん

韓国出身、1999年、留学生の夫、子供と来日

子ども多文化共生センターのサポーターや韓国語の講師をしている。

(4) 大石 キム オワンさん

ベトナム出身、1988年結婚（相手は日本人男性）のため来日

阪神淡路大震災直後に夫が病死しそれ以来ベトナム語講師や兵庫県立神戸甲北高校の講師をしている。

(5) オタイザ ヴァージニア ペレズさん

フィリピン出身、1982年結婚（相手は日本人男性）のため来日

夫と離婚後、NGO外国人救援ネットの通訳ボランティア、相談員、子ども多文化共生センターのサポーターをしている。

パネラーからの提言まとめ

各パネラーから日本へ来た当初の言葉や習慣の違いによるトラブルなど、また、彼らの共通の問題として家庭内での言語レベルの相違（子どもは母国語より日本語を上手に喋り、親は日本語が上手く喋れない）なども紹介された。

また、TVのアニメ「サザエさん」「ちびまるこちゃん」「どらえもん」などを見るのは

日本語学習の助けとなるだけでなく日本の生活や習慣も理解する上に非常に参考になるそうです。



日本語を教える側への要望としては

日本語を教えると同時に生活に密着した日本の習慣、作法なども教えてほしい(言葉だけでなく習慣の違いが日本人との摩擦の大きな原因となる)。

特に大人の場合は仕事や日常生活にすぐに役立つような会話（言葉）を教えてほしい。

学習者が興味のあるテーマを取り上げて教えてほしい。

などが上げられました。

最後に国際結婚についてのアドバイス「相手の言葉はもちろん相手国の習慣、家族の形態、料理、作法などが受け入れられないと結婚しても続けるのは困難」も出てきました。

今回フォーラムを聞いていてパネラーの方々が自分達の日本語勉強だけでなく異文化圏の人々のためにいろんな支援活動を行っていることに感心しました。また、山田先生の言われた「受け入れる側の意識を高めること」が心に残りました。（宮武寿美雄）

■お知らせ■

●バーベキューパーティー

10月21日(日曜日) 芦屋奥池遊びの広場
詳しくはひろばの黒板を見てください。

●年忘れお楽しみ会・にほんごスピーチ大会

12月16日(日曜日) にほんごひろば岡本



●ひろばの冬休み

2007年12月26日(水曜日)～2008年1月9日(水曜日)まで、ひろばはお休みです。

CONTENTS

★にほんごひろば岡本第8回総会報告……………2

★支援者・学習者紹介 大道麻里さん 曹蓮花さん……………3

★学習者紹介 ペンルンさん アンドリューさん 林丹娜さん……………4

★チンタオ便りV.O.1.2 平松久さん……………5

★みんなのひろば 七夕まつり お帰りなさい!カルメンさん レティーさんの校外学習
山本温子さん田代奈緒子さん北京へ……………7

★兵庫日本語ボランティアネットワーク10周年記念フォーラムに参加して 宮武寿美雄さん…9

★お知らせ……………12

【編集子のつぶやき】 いつも思うことですが、みなさんから素敵な文章をいただき、楽しく編集できること感謝しています。表紙の写真は岡本太郎画伯の「明日の神話」です。誰も幸せしか望んでいないはずですね。(I・M)